

施策評価シート【分野別施策】

施策名		関係部					
2 -	健康づくりを推進する	健康・子ども部、学校教育部、市民病院					
所管事業に関連する成果指標							
指標名	単位	改訂計画 策定時	実績値				5年度 目標値
			2年度	3年度	4年度	5年度	
がん検診の受診率	%	16.1	14.9				18.0
特定健康診査（こくほ特定健診）の受診率	%	34.2	32.4 【速報値】				42.0
関連事業							
健康増進事業 特定健診・特定保健指導事業 食に関する指導事業 学校給食地場産野菜等使用推進事業 高度医療器械等整備事業 災害時医療提供推進事業 救命救急センター運用事業							
決算額							
		2年度	3年度	4年度	5年度		
事業費(千円)		773,357					
執行率(%)		92.97					
施策の推進に向けた主な取組の「成果」							
<p>「各種検診と生活習慣病予防等の教室の実施」</p> <p>がん検診を始め、肝炎ウイルス検診、成人歯科健診を含む成人検診（健診）、生活習慣病予防に関する教室（未病改善教室を含む）、内臓脂肪症候群等に着目した特定健康診査及び特定保健指導を実施することで、生活習慣病の早期発見・早期治療や生活習慣の改善を図りました。</p> <p>正しい健康情報の発信と市民の健康に対する意識啓発</p> <p>ホームページ上で受動喫煙と健康に関する情報や、ひらつか健康チェックとしてがんリスク、血圧、適正体重とBMI、メンタルヘルス等を掲載し、意識の啓発を図りました。</p> <p>「食に関する教育活動の推進」</p> <p>各学校において食に関する指導の年間計画を作成し、食に関する指導を行いました。これにより児童・生徒一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣の習得につながりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、学校が長期休業となったため、実施回数が前年度よりも減り、907回実施しました。</p>							

「学校給食地場産野菜等使用推進事業」

学校給食物資選定委員会で決められた平塚産野菜（月平均で4～5品目）を使用するよう努めました。地場産野菜については、使用19品目で品目ベース36.5%の割合となりました。野菜以外の地場産品については、サバ、カオリ麺、小松菜トマトパン、カオリ小麦パンを使用しました。

「地域医療体制の充実」

新型コロナウイルス感染症対策医療機器等を積極的に整備したことで、感染症患者の入院治療を含めた良質な医療の提供が継続できました。また、災害時に病院機能を発揮できるよう感染症対策を行いながら災害対応医療訓練を実施しました。救命救急センターにおいては、救急搬送が必要な患者を積極的に受け入れ、「断らない救急」を実践しました。

施策を推進する上での「課題」

「各種検診と生活習慣病予防等の教室の実施」

がん集団検診の外因(感染症拡大、台風等)による中止に対するフォローが必要です。また、健診受診率の向上を図る必要があります。

正しい健康情報の発信と市民の健康に対する意識啓発

正しい健康情報の発信と平塚市の健康状態の把握(見える化)を推進し、市民の健康に関する意識の啓発を図る必要があります。

「食に関する教育活動の推進」

現在の指導精度を今後も維持できるよう栄養士研修会等の充実が必要です。

「学校給食地場産野菜等使用推進事業」

天候や作柄に左右されやすく量の確保が難しいことがあります。

「地域医療体制の充実」

災害発生時に、感染症患者を含めた入院患

課題解決を図るための「取組方針」

「各種検診と生活習慣病予防等の教室の実施」

がん検診を実施できなかった回数分をできる限り復活させるべく調整を委託機関、施設管理者等と図ります。また、健診未受診者への受診勧奨対策を実施します。

正しい健康情報の発信と市民の健康に対する意識啓発

KDBシステム等を活用したデータ分析から得られた平塚市の健康課題や正しい健康情報について市民に分かりやすく情報を発信していきます。

「食に関する教育活動の推進」

今後も栄養士研修会を毎月開催します。

「学校給食地場産野菜等使用推進事業」

今後も、地場産品を使用できるよう努めます。

「地域医療体制の充実」

感染症患者の避難誘導を目的とした机上

者の避難誘導等安全確保のための検討が必要です。また、救命救急センターにおいては、救急搬送が必要な患者を積極的に受け入れ、「断らない救急」を実践する必要があります。

訓練を検討します。また、救命救急センターにおいては、救急搬送が必要な患者を積極的に受け入れ、「断らない救急」を継続します。